

(主 催)
福島県教育委員会

令和7年度

ふくしまを 十七字で奏でよう

～つながる想い 未来へ届ける 十七字～

絆部門 最優秀賞

「話したい」 あなたの心を ノックする(母)
「聞かないで」 でもそばにいて お母さん(子)

夕立ちに 二人でかける あぜの道(父)
びしょぬれも なぜかうれしい 夏の雨(子)

時間だよ 早く起きてよ すぐ起きろ(母)
声色が 変わるアラム 三段階(子)

浴衣紐 祖母の温もり ほどこずに(孫)
よみがえる 譲りし衣に 夏の風(祖母)

じゃんがらを 今年も父と かき鳴らす(子)
父と子の 鉦かねの音色に 胸沁みる(母)

ふるさと部門 最優秀賞

ばあちゃんち W・F・Fないけど 落ち着くね(子)
通知ゼロ 画面の外に 空がある(父)

あかべこが コフリコフリと 昼ねする(子)
赤べこも 子どもと一緒に 夏休み(母)

いよつかり 手応え6匹 おおはしやぎ(弟)
川音に はしやぐ声のせ 夏盛り(姉) ※いよつかり
川音に はしやぐ声のせ 夏盛り(姉) ※いよつかり

夏休み 母と作った 遠野和紙(子)
想いのせ 和紙のハガキに ありがとう(母)

大震災 小さな僕は 母の背に(子)
時が過ぎ 我が子は母の 背を越して(母)

絆部門 優秀賞

むちむちだ おとつとのおで ちぎりパン(子)
ふれないで やつと寝たのに 起こしたな(母)

ママいない ねえねにだっこ ママのにおい(弟)
かわいいな 勉強推し活 後回し(姉)

またくるね じいじの家は 遊園地(孫)
孫帰る 風の音さえ 空耳か(祖父)

色とりどり 祖母の畑は 万博だ(孫)
脈々と 続く孫らの お手伝い(祖母)

おばあちゃん 雨だ、入って、 ばくの傘(孫)
ありがとう すっかり同じね 肩の位置(祖母)

ふるさと部門 優秀賞

いざかで ふえる大人の おともだち(子)
男湯に 響く会話と 広がる輪(母)

とつものこし うまいよばあちゃん もう二本(孫)
それだから 畑仕事は やめられぬ(祖母)

幸を呼ぶ 左目入れて 願い事(父)
えんぎもの だるまにこめる ゆめきぼう(子)

更地にも 未来を刻む たいこの音(母)
ちよつちんが 明るくてらす みんなの笑顔(子)

なつまつり にぎわいみせる 無き母校(子)
廃校の 校庭花火が 照らす夜(母)

お問い合わせ先

ふくしま
実現する
ふくしま

福島県教育庁
社会教育課

〒960-8688 福島市杉妻町2番16号 (西庁舎4階)

TEL 024-521-7799

URL ▶ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70016a/>



協賛企業・団体 (五十音順)

会津中央乳業株式会社、株式会社岩瀬書店、株式会社ダイユーエイト
株式会社テレビユー福島、株式会社ナカジマエレクトック、株式会社福島銀行
公益財団法人 日本漢字能力検定協会、公益社団法人 福島青年会議所
公立学校共済組合飯坂保養所「あづま荘」、伊達物産株式会社
東信建設工業株式会社、福島中央テレビ、福島民報社、福島民友新聞社
酪王協同乳業株式会社

この事業は、「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。

ふるさと部門 佳作

絆部門 佳作

水うめえ ひやつこいきゅうりも 米もうめえ(子)
いつの間に 関西訛りが 会津弁(母)

納涼の 闇夜に咲いた 笑顔の輪(母)
復興を 花火が照らす 小峰城(子)

山ゆりの 花数ふやし 被災の地(祖母)
また二歩 活気の戻る 被災の地(孫)

田のにおい 夕焼け混じる 帰り道(子)
夕焼けに 田の香ただよい わが子待つ(母)

ほたるきて あかるくなつた ぼくの手が(子)
手にのせた 瞳に映る 宵虫(母)

つらいとき ママのにぎる手 じゅう電器(子)
つらい時 そつとなりで 手のにぎる(母)

父の胸 めがけて投げる ストレート(子)
ストライク 我が子に重なる 父の夢(父)

散歩道 母のおんぶに 空を見る(子)
寄りそつて 影もひとつの 道案内(母)

マッサージ あしこしせなか さいこはギョ(子)
疲れ飛ぶ 最後のギョーが かわいすぎ(母)

だいじようぶ おうちのなかで まつてね(子)
下校時間 何度も眺める 窓の外(母)

むかえ火の 炎にうつる 祖父の顔(子)
じゃんがらの 音色に想ふ 父の影(母)

母が言う 思い出の場所 そこに立つ(子)
思い出す 子が立つ場所に あった家(母)

野馬追の 歴史がひらく 大手門(孫)
陣螺の 音を合図に いざ開門(祖母)

帰るたび 変わらぬ景色 胸あつく(兄)
兄を待つ 北泉の砂 あつくなる(妹)

旧校舎 今も聞こえる 友の声(子)
学び舎の 静かな春に 桜咲く(母)

はいチーズ 入学したよ 似合ってる?(孫)
おめでとう! 届いた画像を 待ち受けに(祖母)

とうさんの せなかにのるのが につかです(子)
日々感じ 股がる重さで 子の成長(父)

伝統と 誇り受け継ぎ 馬駈ける(子)
夢託し 娘と並ぶ お野馬追い(父)

父の手と 同じ縄引く 夢の朝(子)
朝焼けに 網を引く背が 語る夢(父)

折り紙を 教えるその手は ふるえてた(曾孫)
折紙は ひこに教える ばけぼし(曾祖母)

十七字で想いを届けあった参加者の感想

◆親子で作品をつくるというきっかけをいただき、会話を増やすことができました。毎年参加させていただいているので、楽しい時間をすごしています。

◆毎年この事業に応募していて、楽しく子どもと一緒に考えています。そして、作品と一緒に考えていると、ふるさと会津にはこんなに古い歴史があって、よい場所やこんなにかわいい民芸品があるのだと改めて気づかされました。この作品で皆さんに赤べこのかわいらしさが伝わるとよいなと思います。来年もまた参加したいです。

◆私は、「ふくしまを十七字で奏でよう」に参加して心に残ったことは、五七五を書いて最優秀賞に選ばれたことです。毎年「最優秀賞に選ばれないかな?」と思って書いていたので嬉しいです。

◆娘と一緒に五七五をうたい、参加できることが毎回とても楽しかったです。今年は賞まで取れて幸せでいっぱいです。

◆短い着付けの時間の中で感じた夏の風情や祖母の温もりをたった十七字で表すのは難しかったです。けれど、祖母も私も何度も俳句を書き直し、辞書を片手に感想を伝え合うのはとても楽しい時間でした。その時間を通して、祖母との絆は深まり、さらには試行錯誤する中で新しい言葉を知ることができました。互いの温かさ、夏の涼しさも詰まったいい機会になりました。

◆家庭での生活や小学校生活の中で、娘の成長を幸せに思いながら生活をしていました。学校であった出来事や、習い事での出来事などについて家に帰ってきてから話を聞くことがありましたが、共に何かをつくり上げようとする機会は少なかったと思います。今回の「ふくしまを十七字で奏でよう」は子と向き合うよい機会になりました。娘の一句と合わせて、親子で会話をし、一緒に感じたことを言葉にできたことが何よりの喜びです。